



第2日目(7/16) 現地2日目 午前陸前高田伝承館

[速報ページへ](#)

[午後のページへ](#)

岩手県陸前高田市も津波被害で市街地が大きな被害を受けた場所です。奇跡の一本松・旧道の駅のすぐ近くに建てられた伝承館で、現地のボランティアガイドの方に、資料などについてお話を聞かせて頂きました。



自己紹介の時間



語り部の方から説明



消防団の被害車両



津波で曲がった橋げた



伝承館資料閲覧



伝承館・堤防前にて



堤防上の献花台



奇跡の一本松前にて

生徒たちのふりかえり (1)

2年内藤

午前中は陸前高田市にある東日本大震災津波伝承館に行った。岩手県は宮城県に比べて被害は少ないのかと思っていたけどそれは間違いだった。津波の映像や被害の様子もとても衝撃的だった。東日本大震災の前にもたくさんの地震災害が起きていたにもかかわらずこんなにも大きな被害が出たのは過去にはここまで津波が来なかった、もうこの場所は安全という過信が引き起こしたものだと思った。私はまだとても大きい自然災害は経験したことがないけど今回の教訓をいかして、地震が起きたらとにかく迅速に逃げるということを大切にしていきたい。午後からははまわらすさんの活動のお手伝いをした。田んぼに入る機会はあるにないから雑草取りにも気づいたら夢中になって楽しかった。虫もいっぱいいて最初はうとうしかなかったけど気づいたらそれも忘れるくらい自分が自然と向き合っていた。また同時にお米を作るの大変さがわかって毎日お米を食べられることのありがたみを知れた。

1年 中西

津波伝承館では、現地の人々だからこそ出てくる言葉を多く学ぶことができた。消防団が多く亡くなった話や、「大丈夫」と言って逃げなかった人達の命が奪われたという話を聞き、ガイドの方のおっしゃる通り、大丈夫だったとしても逃げるべきだということを学ぶことが出来た。正直なところ、自分の住んでいる地域は安全な場所だ、と思っていたので、今回の伝承館での学びはかなり深く刺さったものとなった。また一番印象に残った言葉が、「100回逃げて100回大丈夫だったとしても、101回目も必ず逃げて。」という当時中学生の少女の言葉である。実際、当時チリ地震を経て生き延びることが出来た中の多くの人々が、「あの時大丈夫だったから」と逃げ遅れてしまったという話を、昨日今日で何度か聞き、まさにその通りなのだと感じた。堤防から海を見た時、その様な大津波が起こったとは思えないほど穏やかで、綺麗で、でもその海の底には無念にも何人の方が流されているのだと考えると、その高い高い堤防を作った当時の人々の思いが目に見えるような気がした。奇跡の一本松は、ニュースなどで度々見たことがあるが、実際に見たのは初めてだったので、とても感動した。また、その松が津波に耐えたという事実はもちろんだが、人々がその松を震災を忘れないための遺産として後世へ語り継ぎ、その遺伝子を持った松を多く植えているというのも素晴らしいことだと思った。はまわらすのお手伝いでは、ただ草むしりの作業をするのではなく、はまわらすの団体を運営している方々の震災に対する思いなどを理解した上で、丁寧に作業することが出来た。かなりしんどかったけれど、被災した方々の苦勞に比べたらちっぽけなものだと割り切って、楽しみながら頑張ることが出来た。終わったあとの達成感はい言えないうほどのものだったので、やりがいのあるボランティアだったと感じた。

1年西

自分がすぐに逃げるのが、助けに来てくれる人達の命を助けることになると思いました。東日本大震災の津波は発生時に時速00キロ、上陸時に時速36キロ(100メートル10秒)あったと聞き、「津波が見えてから逃げるのでは遅い」という話はこのためなんだなと思いました。見せていただいた映像で100回逃げて100回来なくても101回目も逃げて」という言葉を聞きました。とても難しいことだと思います。1度聞いたとき正直自分は101回目は逃げないだろうなと思いました。けれどこの101回目が大事で、実際に被災した方々にしか分からない切実な気持ちがあるのだろうと推測できました。それなので私101回目も逃げる気持ちをこれから持ち続け、実際に起こったら逃げようと思いを引き締めました。この日の午後は田んぼの雑草抜きの手伝いと防潮堤見学をしました。とても足がぬかるむので裸足で入ったのですがそれでも足を取られ、いつも食べている米のありがたさが増しました。始めは虫にもものすごく戸惑い、雑草を抜くにも苦勞したのですが段々と慣れてきて時間があっという間に過ぎました。